精神科領域専門医研修プログラム

■　専門研修プログラム名：　慶應義塾大学病院精神神経科専門研修プログラム

■　プログラム担当者氏名：　内田　裕之

住　　所：〒160-8582　東京都新宿区信濃町 35

電話番号：　03-5363-3829

F　A　X：　03-5379-0187

E－mail：　hiroyuki_uchida@keio.jp

■　専攻医の募集人数：(18) 人

■　専攻医の募集時期：　2026 年 9 月 1 日～　2026 年 9 月 30 日（予定）

■　応募方法：

履歴書を下記宛先に送付の上、筆記および面接試験申し込みを行う。

宛先：〒160-8582　東京都新宿区信濃町 35

慶應義塾大学医学部　精神・神経科学教室　医局

菊地俊暁

TEL: 03-5363-3829

FAX: 03-5379-0187

担当者：菊地俊暁（医局長）

◆提出期限◆

2026 年 9 月 30 日（予定）　変更の可能性があり、最新情報は当教室ホームページに掲載。
http://psy.keiomed.jp

■　採用判定方法：

教授・医局長が履歴書記載内容、筆記試験結果、面接結果に基づき、厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

Ⅰ　専門研修の理念と使命

1．　専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

２．　使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

３．　専門研修プログラムの特徴

慶應義塾大学医学部精神・神経科は、講座開設から100年以上の歴史と伝統を持ち、臨床、教育、研究において、幅広い分野で精神医学の発展に貢献してきた。そして現在も様々な分野で医局員および同窓医師が精力的に活躍している。当大学は、深い人間愛に満ちた医療人の育成のため、高度医療の時代だからこそ、医学的知識に偏らず、全人的なバランスのとれた考え方、医療倫理、社会的教養を養うことを主眼としている。

基幹病院となる慶應義塾大学病院精神・神経科は、開放病棟16床のベッドを有し、難治例、身体合併症例など、措置入院や地域医療以外はほとんどの精神疾患および治療場面を提供している。専攻医は入院患者の主治医となり、教員の密接な指導を受けながら、各種精神疾患に対し、光トポグラフィーを含む様々な生物学的検査や心理検査（神経心理検査を含む）を行い、精神療法（認知行動療法を含む）、薬物療法、修正型電気痙攣療法などを実施する。加えて多数のリエゾン症例に従事し、身体的基盤を有する精神疾患の治療技能を習得する。また、カンファレンス、症例検討会、抄読会、学会発表を通じて、診断および治療に対する理解を深め、エビデンスと経験にバランスよく基づく医療を習得する。また、Physician Scientist の育成を目指し、適宜研究活動を通じて、科学的視点に基づいた医療、またリサーチマインドの醸成に努める。それぞれが最善の医療を行うとする中、エビデンスを整理し、現在エビデンスとして何が欠けているのか、そしてかけているものがあれば、それを自身の研究につなげていけるような環境が整っている。

また、桜ヶ丘記念病院、大泉病院、駒木野病院、井之頭病院、下総医療センター、久里浜医療センターといった東京近郊それぞれの地域の医療を支える主要医療機関のみならず、あさかホスピタル（福島県）、山梨県立北病院（山梨県）、足利赤十字病院（群馬県）、群馬病院（群馬県）、住吉病院（山梨県）、つつじメンタルホスピタル（群馬県）といった地域性を有する地元に根差した医療を展開する施設を連携している。これらの施設でもローテートしながら、専門医として必要な技能と知識を身に着けつつ、地域医療を支える人材の育成にも力を入れる。また、児童思春期、がん患者のリエゾン精神医療を中心に提供する施設とも連携しており、希望に応じて幅広い経験と知識を習得することが可能である。

以上のように、様々な疾患、治療場面を研修することができるプログラムとなっている。また、大学研修期間、地域医療の研修期間が切り離された研修になるわけではなく、専攻医には研修期間を通じて（必要に応じて遠隔通信技術を駆使しながら）、症例検討会、抄読会、学会発表、自身の研究活動の機会が継続的に提供され、基幹施設である大学との意思疎通が継続して行われるようにする。専攻医の募集人数は多いが、幅広い疾患・治療場面での研修および、リサーチマインドの育成が並行して行われるような環境を提供する。質・量ともに十分な指導医陣がそろっており、一領域に偏ることのない、多彩かつ濃厚な指導を受けることが可能になっている。

II.　専門研修施設群と研修プログラム

１．　プログラム全体の指導医数・症例数

■　プログラム全体の指導医数：　　244 人

■　昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	7485	2466
F1	5109	1956
F2	21208	8198
F3	20718	3601
F4　F50	13072	840
F4 F7 F8 F9 F50	3555	758
F6	747	244
その他	1583	144

２．　連携施設名と各施設の特徴

A　研修基幹施設

・施設名：慶應義塾大学病院

・施設形態：私立大学病院

・院長名：松本守雄

・プログラム統括責任者氏名：内田裕之

・プログラム副統括責任者氏名：菊地俊暁・竹内啓善

・指導責任者氏名：内田裕之

・指導医人数：(15) 人

・精神科病床数：(16) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	259	14
F1	39	5
F2	162	39
F3	354	167
F4　F50	481	54
F4 F7 F8 F9 F50	189	33
F6	19	7
その他	132	11

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は934床を有する大規模な大学病院であり、精神･神経科は開放病棟16床のベッドを有する。精神・神経科の固有ベッドのみならず、一般症にも比較的重度の患者を受け入れる体制も整っている。高度専門医療機関として、難治例、身体合併症例など、強い興奮を呈しない限りはほとんどの精神科症例に対応している。気分障害（F3)、統合失調症（F2)、神経症（F4)、摂食障害（F5)、アルコール依存症（F1)、発達障害（F7-9)のみならず、メモリークリニックでは認知症をはじめとする老年期精神疾患、リエゾン医療では症状精神病（F0)、周産期精神疾患等の診断、検査、治療を行う。加えて、光トポグラフィーを含む様々な生物学的検査、心理検査、神経心理検査が可能で、認知療法、修正型電気痙攣療法も多数実施している。ECTの施行件数は年間429件である。また、カンファレンス、症例検討会、抄読会、学会発表を通じて、診断および治療に対する理解を深め、エビデンスと経験にバランスよく基づく医療を習得する。

B　研修連携施設

1.　施設名：つつじメンタルホスピタル

・施設形態：私立単科精神科病院

・院長名：後藤　幸彦

・指導責任者氏名：加藤　隆

・指導医人数：(7）人

・精神科病床数：(172）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	117	36
F1	8	1
F2	262	42
F3	431	26
F4　F50	273	5
F4 F7 F8 F9 F50	90	14
F6	35	1
その他	59	6

当院は群馬県館林市に位置し、人口約１６万人をカバーする１７２床の単科の精神病院である。平成２０年７月に新棟全面改築を終え、多種多様な疾患に対応すべく物理的・人的環境を整えている。

また中核病院としての役割を念頭に群馬県精神科救急システム（夜間救急）への全面協力を始め、地域精神医療に重点を置き、外来治療の一環として大規模デイケア、訪問看護等にも力を入れている。

平成２７年６月より総合支援法に基づく共同生活援助（グループホーム）の運営も行っている。

2.　施設名：国立がん研究センター中央病院

・施設形態：公的総合病院

・院長名：島田　和明

・指導責任者氏名：中原　理佳

・指導医人数：（　4　）人

・精神科病床数：（　0　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	224	0

F1	11	0
F2	29	0
F3	95	0
F4　F50	43	0
F4 F7 F8 F9 F50	1	0
F6	0	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

国立がん研究センター中央病院は日本のがん医療の中核病院であり、あらゆるがん腫に対して最先端の医療を提供し、先進的な診断法及び治療法を創出している。がん患者及び家族には高頻度で精神疾患が合併するため、精神科医は緩和ケアチームのメンバーとして積極的にチーム医療に参画し、多職種とも連携したリエゾン・コンサルテーションサービスを提供している。臨床に加えて、研究開発部門と連携した臨床研究のアクティビティも高い。介入対象となる精神疾患はうつ病、適応障害、せん妄が主であり、経験豊かな指導医のもと、多くの症例を経験し、精神療法、薬物療法及びチーム医療におけるコンサルテーションスキルについて学ぶことが可能である。なお、緩和ケアチームの研修に加えて、希望すればIntensive Care Unit に配属となり、精神症状管理も含めたCritical Care Medicineの研修も選択できる。

3.　施設名：あさかホスピタル

・施設形態：私立単科精神科病院

・院長名：佐久間　啓

・指導責任者氏名：喜田　恒

・指導医人数：（　7　）人

・精神科病床数：（　470　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	324	148
F1	22	19

F2	681	445
F3	607	170
F4　F50	277	23
F4 F7 F8 F9 F50	337	8
F6	24	12
その他	218	25

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、許可病床 470 床の精神科病院で、精神科救急病棟 60 床を有しており、地域の精神科基幹病院として医療観察法による鑑定入院及び措置入院をはじめ多数の入院を受け入れている。こどもの心外来や入院治療を行う児童・思春期ユニット病棟（29 床）を有し、就学前の児童からお年寄りまで「心」の診療を幅広く総合的に行っている。器質性精神障害・認知症（F0）、統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）などをはじめ、多彩な疾患、症例を経験することが可能である。精神科病棟（入院基本料 15 対 1）、認知症治療病棟、精神療養病棟、特殊疾患病棟も有している。

難治性統合失調症に対するクロザリルの登録医療機関であり、m-ECT（修正型電気けいれん療法）も実施している。身体的治療については内科医、神経内科医、脳神経外科医、歯科医が勤務し、MRI、CT、骨密度、エコー、内視鏡検査の体制を整えており、統合失調症や認知症の方の血液透析も行っている。血液・尿検査も１時間程で結果報告を行える体制となっている。

児童・思春期領域の治療も積極的に行っており、発達障害に関しては、リハビリとして感覚統合訓練、親へのペアレントトレーニング等を行い、病院敷地内にある関連施設の総合発達支援センター「Alba」での相談支援や就学前児童のデイサービス、或は就学児童の放課後デイサービス等とも連携している。作業療法士をはじめ公認心理師、精神保健福祉士、言語聴覚士などコメディカルが多数勤務しており、児童へのチーム医療の体制がとても充実している。

また、当院では先進的に地域移行に取り組み、平成１４年に始動した「ささがわプロジェクト」では統合型精神科地域治療プログラム（Optimal Treatment Project: OTP）に基づき、９０人の方々が地域移行し、診察やデイケア、訪問看護などの医療サービスと NPO 法人アイキャンによる生活支援や就労訓練をチームとして統合的に行ってきた。現在 NPO 法人アイキャンではグループホームで約 140 人の生活支援を行い、K ふぁーむという農場、パン工房、そしてイタリアンレストランでの就労支援も行い、グループとして障害者雇用も幅広く取り組んでいる。リハビリ部門は精神科作業療法や精神科デイケア、精神科デイナイトケア、精神科ナイトケア、重度認知症患者デイケアなどがあり、訪問看護は、年間 10,000 件を超えており、多職種がチームとして多彩なプログラムとサービスを提供している。

4.　施設名：山梨県立北病院

・施設形態：地方独立行政法人県立北病院機構（公的単科精神科病院）

・院長名：宮田　量治

・指導責任者氏名：宮田　量治

・指導医人数：（　5　）人

・精神科病床数：（　188　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	145	33
F1	173	42
F2	1613	418
F3	690	125
F4　F50	188	26
F4 F7 F8 F9 F50	78	12
F6	32	5
その他	139	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

研修１年目を担当する山梨県立北病院は、山梨県精神科基幹病院であり、救急例から慢性例まで、また、児童・思春期から高齢者までの幅広い年齢層の精神疾患患者に対応し、重度の身体合併症例をのぞく精神疾患を短期に網羅的に経験することができる。当施設では学会作成の「専門研修プログラム整備基準」にもとづき、まず主要な精神疾患（統合失調症、躁うつ病、神経症、認知症）の面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本を学び、治療抵抗例に対する mECT やクロザピンなどのより高度な治療、及び、精神科リハビリテーション（デイケア、訪問、地域連携）についても学ぶ。それらの基本疾患への対応を経験した後は、多数の症例（入院・外来）を経験するとともに、思春期症例、アルコールなどの物質依存症例、パーソナリティ障害など専門性の高い領域についても経験する。指導医は５名。

5.　施設名：大泉病院

・施設形態：私立単科精神科病院

・院長名：半田　貴士

・指導責任者氏名：半田　貴士

・指導医人数：（　9　）人

・精神科病床数：（　240　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	30	38
F1	26	23
F2	106	599
F3	207	367
F4　F50	67	30
F4 F7 F8 F9 F50	22	11
F6	16	21
その他	22	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

東京都区西北部にある精神科病院であり、240 床の病床のうち９６床が精神科救急病床である。年間 900 名以上の新入院があり、措置入院も年間 60 名を越える。救急病棟の平均在院日数は 50 日前後であり、入退院が多く,急性期の症例を豊富に経験することができる。また、デイケア、作業療法、心理教育プログラム、訪問看護にも力を入れており、多職種によるチーム医療に参加できる。グループホーム、宿泊型生活訓練施設も併設しており、地域医療、社会復帰活動にも積極的に取り組んでいる。

6.　施設名：足利赤十字病院

・施設形態：赤十字 総合病院精神科

・院長名：小松本　悟

・指導責任者氏名：船山　道隆

・指導医人数：（　1　）人

・精神科病床数：（　40　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	302	46
F1	49	16
F2	326	216
F3	354	150
F4　F50	312	9
F4 F7 F8 F9 F50	138	43
F6	19	5
その他	35	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

総合病院精神神経科で可能な治療をほぼすべて行っている地域の中核病院である。入院加療では、クロザリルによる治療、修正型電気けいれん療法、栃木県の措置入院の身体合併症治療、群馬県の医療保護レベルまでの身体合併症治療を行っている。外来では、特殊外来として、高次脳機能外来および物忘れ外来、児童発達外来がある。外来および入院のリハビリテーションとして、ショートケアおよび作業療法を行い、慢性期の患者様にも対応している。さらに、地域の社会福祉法人と連携を図り、就労支援も行っている。

7.　施設名：川崎市立川崎病院

・施設形態：公立総合病院

・院長名：金井　歳雄

・指導責任者氏名：齋藤　寿昭

・指導医人数：（　1　）人

・精神科病床数：（　38　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	69	20
F1	93	20
F2	663	129
F3	921	153
F4　F50	807	35
F4 F7 F8 F9 F50	66	8
F6	14	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は病床数 733 床（一般 683 床、精神 38 床、感染 12 床）、27 診療科を有する臨床研修指定病院である。精神科救急（神奈川県の基幹病院）指定となっており措置入院を含め精神保健指定医等の資格取得に必要な症例を研修できる。精神科病棟は閉鎖、隔離室からなり、精神保健福祉法にもとづいた様々な形態の精神科入院を研修することができる。さらに、心神喪失などの状態で重大な他害行為を行った者の医療および観察に関する法律(医療観察法)に基づく医療についての指定通院医療機関であり、指定通院などを積極的に受け入れている。また市の中核である総合病院精神科であり、外来では様々な精神疾患を経験することができる。さらに他科とのコンサルテーション・リエゾン、緩和ケアなど総合病院精神科ならではの研修が幅広くできる。また一般的な薬物療法での効果が認められない患者様につき麻酔科と連携のもと適用を検討したうえで修正型通電療法（m-ECT ）を施行し、統合失調症難治例に対して適応を吟味したうえクロザピンの使用を入院および外来でおこなっている。

8.　施設名：日本心身障害児協会島田療育センター

・施設形態：重症心身障害児施設

・院長名：久保田　雅也

・指導責任者氏名：　野村　健介

・指導医人数：（　3　）人

・精神科病床数：（　0　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	0	0
F2	1	0
F3	2	0
F4　F50	154	0
F4 F7 F8 F9 F50	290	0
F6	0	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

ADHD や自閉スペクトラム症、LD など神経発達症群の小児を中心に年間 300～400 名（小児科を合わせると 500～1000 名）の初診を受け入れている。知的発達症の小児の問題行動のマネジメントや児童の抑うつ、子育てに悩む保護者の適応障害や気分障害などの診療も行っている。PT,ST,OT,心理職などのリハビリスタッフの充実は都内でも有数で、相談をしながらインテンシブな診療を行っているのが特徴である。患児の 9 割以上は南多摩医療圏に在住で、地域の園や小中学校、教育センターや児童相談所などと連携して診療に当たる経験も可能である。

9.　施設名：横浜市立市民病院

・施設形態：公立総合病院

・院長名：　石原　淳

・指導責任者氏名：　志々田　一宏

・指導医人数：（　1　）人

・精神科病床数：（　0　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	100	0

F1	10	0
F2	30	5
F3	100	20
F4　F50	86	13
F4 F7 F8 F9 F50	69	11
F6	30	10
その他	30	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神保健福祉法によらない精神科入院治療を一般病棟で行っている数少ない病院である。休養・精査・薬剤調整など、閉鎖病棟では実施しにくい目的の入院治療を体験しその意義を学ぶことが出来る。

緩和ケアチーム、産科・小児科と連携した母子サポートカンファレンス、精神科リエゾンチームなどのチーム活動を積極的に行っており、特に母子サポートカンファレンスと精神科リエゾンチーム活動は地域の先導的存在である。

他科からの依頼の病棟併診初診が年間 400～500 件程度あり、せん妄・症状精神病・身体疾患の二次症状としての精神症状など、多彩な症例が経験出来る。

指導医の専門分野が児童精神科であるため、乳幼児から青年期まで、子どもの外来治療の症例が豊富である。

10.　施設名：医療法人くすのき会南飯能病院

・施設形態：私立単科精神科病院

・院長名：　角田　健一

・指導責任者氏名：　角田　健一

・指導医人数：（　4　）人

・精神科病床数：（　308　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0

F1	0	24
F2	2897	216
F3	1909	63
F4　F50	2	0
F4 F7 F8 F9 F50	0	1
F6	0	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

全 308 床のうち急性期や身体合併症を扱う 68 床の病棟を有する、埼玉県の飯能・日高地区の中核的単科精神科病院である。大型のデイケア棟を昨年新設し、今年度はグループホームを建設予定である。統合失調症が大部分であるが、周囲には老人病院や介護施設が多く、認知症による行動障害を扱うケースも増えてきている。昨年度最新のヘリカル CT を導入しより正確な診断が可能となり、また集中的な治療を行うために認知症治療病棟を設置する予定である。付属施設として老人保健施設「飯能ケアセンター楠苑」、「地域包括支援センター南町」があり、介護と医療の連携を包括的に行なっている。飯能市は大部分が山間部を占めているため、当院は訪問サービスや在宅支援に力を入れている。

11.　施設名：日本鋼管病院

・施設形態：私立総合病院

・院長名：　小川　健二

・指導責任者氏名：　中山　綾子

・指導医人数：（　2　）人

・精神科病床数：（　0　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	28	0
F1	19	0
F2	101	0

F3	248	0
F4　F50	477	0
F4 F7 F8 F9 F50	6	0
F6	19	0
その他	3	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

神奈川県川崎市南部における地域中核総合病院の精神科である。一般病床３４７床、療養病床４８床、14 診療科を有する総合病院であり、リエゾン・コンサルテーションでは、多彩な疾患・症例を経験することができる。また、外来では、16 歳以上の全ての初診患者を予約なしで受け入れているため、幅広い年齢層・生活背景を有する F0～F9 までの全ての疾患の診療を経験することができる。製造業の社屋・工場が数多く存在する地域性を反映して、産業メンタルヘルスに関与する機会も数多く経験することができる。

12.　施設名：国立病院機構久里浜医療センター

・施設形態：精神科・内科病院

・院長名： 松下　幸生

・指導責任者氏名： 木村　充

・指導医人数：（　6　）人

・精神科病床数：（　246　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	258	13
F1	1002	557
F2	529	174
F3	943	236
F4　F50	357	96

F4 F7 F8 F9 F50	11	3
F6	26	4
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

１．依存症分野：最も古いアルコール依存症の専門治療施設として依存症の診療を行うと共に、厚労省による全国依存症治療拠点施設として指定されており、全国研修などによってわが国の依存症診療をリードする役割を担っている。さらに近年はアルコール以外の嗜癖関連疾患にも積極的に関与しており、インターネット依存やギャンブル障害の専門外来を開設している。

２．司法精神医学分野：医療観察法病棟は 2 病棟を有し、病床数は国立精神神経医療研究センターに次いで 2 番目に多く、司法精神医学の分野にも積極的に貢献している。

３．認知症疾患医療センター：神奈川県認知症疾患医療センターの指定を受けており、器質性精神疾患の専門外来を有する。

４．一般精神医学分野：思春期専門外来を開設している。また、修正型 ECT およびクロザピンによる治療を導入しており、近隣の精神科病院及びクリニックと提携して統合失調症やうつ病の難治例も積極的に診療を行っている。一方、デイケアは一般精神デイケア、アルコール依存症専門デイケアに加えてうつ病およびアルコール依存症を対象とした復職支援プログラムにも取り組んでいる。訪問看護による地域医療も実施している。

５．研究部門：　臨床研究部が設置されており、依存症については疫学研究や生物学的研究において日本を代表する施設である。また、日本アルコール関連問題学会事務局が設置されており、学会の運営にも積極的に関与している。その他、3 テスラ MRI が稼働しており、脳機能画像研究を開始している。また、アルコール代謝酵素の遺伝子多型はアルコール依存症のほぼ全例で決定しており、分子疫学を用いた学会発表、論文発表を活発に行っている。

６．研修部門：教育情報部を設置し、アルコール依存症、ギャンブル依存症、インターネット依存の各依存に関する研修を定期的に実施している。研修の対象は、医師、看護師、心理療法士、ソーシャルワーカー、作業療法士、保健師といった医療職の他、回復支援施設職員、一般住民、教育関係者、警察関係者、アルコール業界等幅広く実施している。

13.　施設名：住吉病院

・施設形態：民間単科精神科病院

・院長名：　中谷　真樹

・指導責任者氏名：中谷　真樹

・指導医人数：（　3　）人

・精神科病床数：（　306　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	21	4
F1	391	146
F2	774	290
F3	359	68
F4　F50	143	10
F4 F7 F8 F9 F50	6	1
F6	15	4
その他	63	10

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神科単科病院として、統合失調症（F2）や気分障害（F3）をはじめ、山梨県内唯一のアルコール専門病棟によるアルコール症治療（F1）など、様々な疾患、症例、治療プログラムを経験すると同時に、東邦大学薬学部より精神科専門薬剤師を定期的な派遣を受け、薬剤師と協働した適切な精神科薬物療法について学ぶことができる。また、摂食障害を含むアディクションの治療についても力を入れて行っている。

併設の訪問看護ステーションによる訪問医療、生活支援センターをはじめとした各種社会復帰施設における地域連携、障害者就業・生活支援センターによる精神障害者への就労支援等についても、実情とその役割について学ぶことができる。特に就労支援に関しては、病院の中にも担当の部署、人員を設置して、活動の一環として「働くこと」の有用性につきエビデンスある「援助付雇用」を志向している。

14.　施設名：聖マリアンナ医科大学病院

・施設形態：私立大学病院

・院長名：　大坪　毅人

・指導責任者氏名：　小口　芳世

・指導医人数：（　6　）人

・精神科病床数：（　48　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	72	252
F1	8	7
F2	659	71
F3	1247	122
F4　F50	191	10
F4 F7 F8 F9 F50	201	11
F6	5	3
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 1208 床で 30 の診療科を有する大規模な私立大学病院であり、精神科は 52 床の閉鎖病棟を有している。高度専門医療機関として、主に難治性の症例を中心に、統合失調症（F2)、気分障害（F3)、認知症（F0)などの治療にあたっている。エビデンスに基づいた薬物療法を重視し、修正型電撃けいれん療法は 2014 年度に 506 回施行し、全国でもトップクラスである。また身体合併症治療、リエゾン・コンサルテーションも積極的に行っており、精神科臨床を幅広く経験できることも特徴である。緩和ケアチームに参加し、がん医療における精神医学的ニーズに関して学び、治療経験を積むこともできる。さらに臨床精神医学の研究会を主催しており、最新の情報を入手できると同時に、精神療法の習得にも力を注いでおり、精神分析・精神力動のカンファレンスやセミナーを定期的に開催している。

15.　施設名：埼玉メディカルセンター

・施設形態：総合病院

・院長名：　吉田　武史

・指導責任者氏名：　林田　文子

・指導医人数：（　2　）人

・精神科病床数：（　10　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	85	2
F1	5	1
F2	40	4
F3	78	18
F4　F50	155	5
F4 F7 F8 F9 F50	45	0
F6	8	0
その他	24	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院はさいたま市という人口の多い地域にある総合病院であり、経験できる症例は多岐にわたる。日本精神神経学会の研修施設に認定されており、指導医の指導のもと、専門医取得に必要な症例を経験できる。特に、身体合併症症例、器質性精神障害、コンサルテーション・リエゾン精神医療、心理教育などを数多く経験できる。多職種でのチーム医療が活発であり、その実際を経験することが可能である。また、さいたま市内では、精神科関連の研究会が多数開催されており、指導医の指導のもと、発表の機会を持つことができる。

16.　施設名：国立研究開発法人国立がん研究センター東病院

・施設形態：総合病院

・院長名：　大津　敦

・指導責任者氏名：　小川　朝生

・指導医人数：（　1　）人

・精神科病床数：（　1　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	574	0
F1	48	0

F2	29	0
F3	71	0
F4　F50	164	0
F4 F7 F8 F9 F50	17	0
F6	0	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

日本有数のがん専門病院内の精神科として、緩和医療科と協働し、外来・リエゾン業務を主体に診療している。業務はがん治療の障害となる適応障害、せん妄、認知症、物質依存等への対応のほか、意思決定支援や倫理的問題、家族サポートなど多岐にわたる。診療に際しては精神医学的側面のみならず、背後にある身体疾患の病態、生活背景、心理的特性、医師患者間の力動まで含めてアセスメントし、治療に臨む患者とスタッフ双方を共にサポートした上で、退院後の生活まで見据えた医療を提供する。また臨床研究や他医療者への教育についても精力的に取り組んでいる。精神的・身体的問題はもちろん、心理的、社会的、実存的問題までを総合的に判断できる、全人的視点を有する医療者の育成を目指す。

17.　施設名：国立精神・神経医療研究センター病院

・施設形態：国立高度専門医療研究センター（ナショナルセンター）

・院長名： 阿部　康二

・指導責任者氏名： 野田　隆正

・指導医人数：（　20　）人

・精神科病床数：（　191　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	792	113
F1	274	48
F2	1,750	445

F3	1,820	370
F4　F50	1,413	132
F4 F7 F8 F9 F50	207	32
F6	36	12
その他	417	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

648 床を有する精神疾患、神経疾患、筋疾患及び知的障害その他の発達の障害に特化した国立高度専門医療研究センターである。精神科病床は 191 床(一般精神科 123 床、心神喪失者等医療観察法 68 床)を有する。統合失調症(F2)、気分障害(F3)、認知症(F0)、依存症(F1)、睡眠障害(F5)、てんかん(G40)およびそれに関連する器質的精神障害(F0)に関しては専門外来を有し、外来・入院の一貫した治療システムを有している他、重症神経症 (F4)、摂食障害(F5)、発達障害(F7-9)についても広く受け入れを行っている。一般精神科病棟は精神科救急病棟と精科急性期病棟から構成されており、地域の精神科救急に対応している。修正型電気けいれん療法に関しては地域精神科病院からの依頼も広く受けている。当センターは全国で初めて医療観察法病棟を設置した病院である。また当センターの医療観察法病棟は全国で唯一の合併症に対応した病床を有している。医療観察法病棟における患者の診断・多職種治療について学ぶことができ司法精神医学を専門とすることを希望する者は本研修コース終了後専門領域に進むことができる。院内には神経内科、脳外科、小児神経科、消化器外科、循環器内科、消化器内科、整形外科があり、身体合併症患者にも対応しており、他科の治療を受けている患者の精神症状に対するコンサルテーション・リエゾンにおける精神科治療・関与を習得できる。脳波(長時間ビデオモニタリング、睡眠ポリソムノグラフィーを含む)・CT・MRI・核医学検査(SPECT,PET)・光トポグラフィー・脳磁図など豊富な診断機器を装備しており、放射線科、神経内科、脳外科などと連携して画像診断について学習する。このような中で定例の病棟カンファレンス、症例検討会、文献抄読会により、症例への理解を深めるとともに、治療関係を含めた精神療法的関与、薬物治療等についての学習、習得をはかる。特に認知行動療法に関しては積極的に実践・教育を行っており、センター内の認知行動療法センタースタッフによる講義、スーパービジョンを受けることができる。集団精神療法、院内作業療法、デイケア、訪問看護、就労支援、復職支援プログラムにより、多職種連携医療、精神科リハビリテーションの技術を習得する。病院内ではセンター内に併設されている研究所と協同で常に臨床研究が複数行われており、同様にセンター内に併設されているトランスレーショナル・メディカルセンターの支援を受けて専攻医自身も臨床研究を実施し、学会発表、論文発表を行うことができる。

18.　施設名：埼玉医科大学総合医療センター

・施設形態：大学病院

・院長名： 堤　晴彦

・指導責任者氏名： 吉益　晴夫

・指導医人数：（　6　）人

・精神科病床数：（　0　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	33	0
F1	5	0
F2	51	0
F3	133	0
F4　F50	91	0
F4 F7 F8 F9 F50	13	0
F6	12	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

埼玉医科大学総合医療センターは、埼玉県川越市にある。東武東上線、JR 埼京線、または、西武新宿線である。首都高速を利用して自動車通勤もできる。地域の中核病院でもあり、救命救急センターと総合周産期母子医療センターを含めて 984 の病床がある。精神科に病棟は無いため、リエゾン診療と外来診療が研修の中心となる。認知行動療法と PTSD に対する EMDR（眼球運動による脱感作と再処理）を行っていて、周産期メンタルヘルスや解離性障害の専門外来がある。症例検討会と勉強会には特に力を入れている。埼玉方面に人脈を広げておくことも、どこかできっと役に立つであろう。

19.　施設名：下総精神医療センター

・施設形態：独立行政法人　国立病院機構

・院長名： 女屋　光基

・指導責任者氏名： 小泉　輝樹

・指導医人数：（　8　）人

・精神科病床数：（　496　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	105	163
F1	271	117
F2	1316	542
F3	335	60
F4　F50	16	0
F4 F7 F8 F9 F50	3	0
F6	6	39
その他	78	18

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は昭和 16 年（1941 年）、軍事保護院、傷痍軍人下総療養所として創設され、先の大戦での頭部戦傷軍人を収容したことが始まりである。また、当院は千葉市にありながら、東京ドーム 4 個分と言われる広大な敷地をもち、四季折々の季節の移ろいを感じさせてくれる豊かな自然を持っている。

そこに、7 個病棟　精神科救急 40 床、処遇困難 50 床、結核合併症 50 床、認知症 50 床、薬物依存・中毒病床 40 床、医療観察法病棟 34 床、開放病棟 50 床の 314 床を運用病床としている。

その病床を使い、当院の使命である国立病院機構の精神基幹医療施設、同時に国の精神疾患に対する政策医療実施機関としての役目を果たすべく、精神科救急・急性期および慢性期の精神障害の治療、関東地域を対象とした結核合併症および神経疾患や、薬物依存・中毒性疾患の治療、並びに千葉県内で唯一の医療観察法に基づく診療を行っている。

精神科救急としては、千葉県精神科救急システムに参加し、薬物依存病棟では関東全域から、覚せい剤・大麻・危険薬物などの薬物精神病・依存の治療を積極的に行っている。認知症もアルツハイマー型認知症に限らず、前頭側頭型認知症、ピック病などのタウオパチー諸疾患、さらにはハンチントン舞踏病、DRPLA などのトリプレットリピート病などの精神症状を伴う神経難病も受け入れ、クロイツフェルド・ヤコブ病の患者も入院していて、県内唯一の同病の剖検も実施している。

20.　施設名：東京都立松沢病院

・施設形態：公的病院

・院長名：齋藤　正彦

・指導責任者氏名：大島　健一

・指導医人数：（　20　）人

・精神科病床数：（　800　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	35	32
F1	101	38
F2	271	146
F3	75	33
F4　F50	54	18
F4 F7 F8 F9 F50	81	12
F6	17	11
その他	27	6

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は東京都世田谷区に位置し、東京都の行政精神科医療等で中核的な役割を担っている精神科病院である。800 症の精神科病床を有し、精神科医が約 40 名在籍している。内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科の身体合併症入院病床も有し、身体科の医師は約 25 名在籍する。精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、青年期医療、認知症医療、アルコール・薬物医療，医療観察法病棟の他、デイケア、精神科作業療法等を行っている。精神科領域のほとんどの疾患を経験することができ、措置入院や医療観察法入院を含め、すべての入院形態の症例を扱っている。

21.　施設名：　慈雲堂病院

・施設形態：私立単科精神科病院

・院長名： 田邊　英一

・指導責任者氏名：田邊　英一

・指導医人数：（　3　）人

・精神科病床数：（　504　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	89	304
F1	12	16
F2	544	597
F3	160	144
F4　F50	45	29
F4 F7 F8 F9 F50	2	2
F6	5	4
その他	13	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

23 区内で 80 年以上の歴史を持つ、543 床の精神科病院である。近年は精神科急性期医療と認知症医療を 2 本柱として診療を行っている。精神科急性期医療は指定病院であり、措置入院の受入も行っている。また近隣の精神科クリニックのみならず一般科病院とも連携をとり、入院・外来患者の受入を積極的に行っている。認知症医療は東京都老人性認知症専門病棟 50 床を平成 6 年より稼働させ、平成 27 年 9 月からは認知症疾患医療センターの指定も受け、行政や医師会とも連携をとりながら主に重度の認知症の入院医療を受けている。訪問看護ステーション、グループホームがあり、長期入院患者の地域移行にも積極的に取り組んでいる。

22.　施設名： 医療法人慶神会　武田病院

・施設形態：私立単科精神科病院

・院長名： 武田　龍太郎

・指導責任者氏名： 武田　龍太郎

・指導医人数：（　8　）人

・精神科病床数：（　140　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	13	2
F1	6	2
F2	356	109
F3	385	65
F4　F50	145	19
F4 F7 F8 F9 F50	10	2
F6	23	5
その他	113	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は昭和 35 年診療所として設立され、昭和 38 年に病院となり、本年で創立 55 年を迎える。そして創立時以来精神療法的な治療アプローチを重視して運営され、精神力動的な病院運営を目ざし、「患者様一人一人を大切に、人と人とのつながりを大切に」という理念にも示している。病院という集団場面での治療設定を有効に活かすため、近年では個人精神療法など個人アプローチ中心の治療手段から、特に入院やデイケア場面では、多職種による集団精神療法的アプローチをその中心におき、集団精神療法、疾患別入院集団心理教育プログラム、家族心理教育プログラム、SST、薬の勉強会（心理教育）、作業療法、入院マインドフルネスプログラムなど多様な集団プログラムを実施し、多職種連携促進のための各種スタッフミーティングでの検討を重視している。これは、入院やデイケアといった治療環境自体を患者にとって安心できる存在にするものであり、患者本人の心理発達過程を促進し、症状の改善にも有効に作用する。また、治療内容としては、精神科急性期治療病棟を中心に多様な患者（措置入院、人格障害ケース、地域困難ケース、うつ病など）を受け入れ、多くの方が短期間（急性期平均 48 日）で自宅や地域グループホームなどに退院し、退院先がすぐにない場合は、入院中に地域連携機関と共に行き先を検討するなどスムーズな地域移行を目指し平成 26 年新規入院患者の 1 年後入院残留者は約２％となっている。そして、退院後は当院デイケアや地域社会資源につなげており、また川崎市北部の急性期精神医療、地域医療の中心的病院として活動し、当院が主要な役割を担う、地域作業所や保健所、相談支援センターなどとの定期的な地域連携会議の運営に関与している。

その他の特徴としては、産業精神保健についても力を入れ、気分障害圏復職支援デイケアとして、地域の産業医や主治医から紹介された患者様が連日約 25 名参加され、集団認知行動療法や集団精神療法などを中心に、無理のない復職、疾病再発防止、心理過程における発達促進を目指して、これまでも多くの方が復職をとげている。

23.　施設名： 医療法人鶴永会　鶴が丘ガーデンホスピタル

・施設形態：私立単科精神科病院

・院長名： 後藤　晶子

・指導責任者氏名： 後藤　晶子

・指導医人数：（　6　）人

・精神科病床数：（　200　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	15	20
F1	3	6
F2	57	172
F3	81	104
F4　F50	381	12
F4 F7 F8 F9 F50	14	1
F6	6	7
その他	6	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

昭和 46 年開院。南多摩から横浜を医療圏とする 200 床の精神科単科病院。指定病床 5 床。「病院らしくない開放的なホスピタリティ」により精神科急性期病棟 44 床では初発例や思春期症例が比較的多い。また認知症疾患治療病棟 48 床を有し、オレンジプランに基づく認知症患者アウトリーチ事業に参画し訪問診療の機会も得られる。この他開院当時から継続する家族教室、さらに家族及び当事者への疾患教育プログラム、うつ病への心理教育プログラムが盛ん。指導医は学校医、産業医、自治体の保険相談、一般病院へのリエゾン業務等地域での活動も兼務しており研鑽を積む機会が得られる。

24.　施設名：　井之頭病院

・施設形態：公益財団法人単科精神科病院

・院長名：　木下　文彦

・指導責任者氏名：　木下　文彦

・指導医人数：（　11　）人

・精神科病床数：（　640　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	105	72
F1	1359	510
F2	1346	649
F3	603	127
F4　F50	88	12
F4 F7 F8 F9 F50	14	3
F6	31	7
その他	6	42

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

JR 三鷹駅から徒歩 9 分の立地にある、640 床の都市型単科精神科病院。高い病床利用率を維持し、活発な医療活動を展開している。統合失調症、うつ病、不安障害、認知症、発達障害などに加え、アルコール依存症の専門医療にも力を入れており、アルコール病棟（3 棟）、アルコールデイケア、アルコール外来からなるアルコール症センターを有している。地域と密に連携した多職種チームによる丁寧な精神科医療を心がけており、退院時の環境調整にも重きを置いている。リハビリ部門では、デイケアに加えリワークプログラムを実施している。医療観察法の鑑定入院と指定通院を受け入れている。平成 27 年 6 月には新病棟が完成し、ハード面においても充実を図った。

25.　施設名： 独立行政法人国立病院機構東京医療センター

・施設形態：総合病院

・院長名： 新木　一弘

・指導責任者氏名： 古野　毅彦

・指導医人数：（　4　）人

・精神科病床数：（　48　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	250	210
F1	40	30
F2	150	40
F3	600	100
F4　F50	500	34
F4 F7 F8 F9 F50	155	30
F6	50	10
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

mECT 適応症例の担当と実技、集団認知行動療法（CBGT）への observer としての参加、生物・心理・社会モデルに基づいた診断・治療の解説・実地指導、ガイドラインに基づいた必要最低限に抑える薬物療法の解説・実地指導、患者さんやご家族の面接を含む case conference への参加、30 人/年の初期研修医の指導を通した自己の知識の確認、他の診療科との連携の緊密さによる身体合併症・併存症の管理など。

26.　施設名： 医療法人財団青溪会 駒木野病院

・施設形態：私立単科精神科病院

・院長名： 菊本　弘次

・指導責任者氏名： 田　亮介

・指導医人数：（　13　）人

・精神科病床数：（　447　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	472	116
F1	581	161
F2	1138	299
F3	726	204
F4　F50	189	18
F4 F7 F8 F9 F50	146	15
F6	54	16
その他	8	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

東京都八王子市に位置する精神科病院であり、 ２つの精神科救急病棟（計 91 床）を中心に措置入院を含めて急性期治療に積極的に取り組んでいる。認知症に対しては３ＴのMRIを利用してメモリー外来を開設し、BPSD の激しい方には認知症治療病棟での治療を行っている。加えて児童精神科を有し、外来のみならず 33 床の児童精神科病棟での入院治療にあたり、八王子東特別支援学校の協力を得て院内学級も運営されている。そのほかに多職種による退院支援、作業療法、デイケア、アルコール依存症の治療プログラム、修正型電撃けいれん療法を実施しており、様々な年齢層・精神疾患に対応できる体制をとっている。またグループホーム、市役所、保健所などに嘱託医として派遣し、地域連携にも重点をいれている。

27.　施設名： 社会福祉法人 桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院

・施設形態：単科精神科病院

・院長名： 岩下　覚

・指導責任者氏名： 岩下　覚

・指導医人数：（　8　）人

・精神科病床数：（　467　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	409	141
F1	231	69
F2	1245	355
F3	968	132
F4　F50	525	24
F4 F7 F8 F9 F50	19	1
F6	57	13
その他	42	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、昭和 15 年に精神科・神経科専門病院として開設され、当初より医療と福祉の連携を志向し、数少ない社会福祉法人立の単科精神科病院として、公共的で民主的な姿勢に基づいた病院運営を心掛け、また、戦前の早い時期から患者さんの人権を尊重した開放的処遇に努め、豊かな自然に恵まれた広大な敷地を利用して活発なリハビリテーション活動を行い、患者さんの社会復帰に力を注いできた歴史がある。

一方、近年はアメニティの改善を図りながら全病棟を機能別に再編成し、精神科救急入院料病棟、精神科急性期治療病棟、アルコール疾患、認知症疾患治療病棟等、各専門病棟や精神療養病棟等を整備し、それぞれの病棟が多彩な治療プログラムを用意することによって、個々の患者さんのニーズに即した、より個別的な治療を行う体制が整ったものを考えている。

またこの間も、アルコール疾患、認知症疾患、認知行動療法等各専門外来、更にはデイケア、訪問看護、ホームヘルプサービス等を中心に外来治療と地域ケアの一層の充実を図るとともに、平成 27 年 9 月 1 日には“地域連携型認知症疾患医療センター”の指定を受け、今後は多摩市を中心に認知症医療における諸機関連携の推進役を担っていくこととなった。

当院は、今後も心身医学やメンタルヘルスのより広範な領域にも対応可能な総合的精神科専門医療機関として、より質の高い精神医療の実践を目指す所存である。

28.　施設名：　東京武蔵野病院

・施設形態：私立単科精神科病院

・院長名： 黄野　博勝

・指導責任者氏名： 林　直樹

・指導医人数：（　13　）人

・精神科病床数：（　637　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	453	130
F1	151	23
F2	1812	1450
F3	830	258
F4　F50	108	18
F4 F7 F8 F9 F50	23	5
F6	38	17
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

東京の区西北部に位置する 630 床を超える病床を持つ単科精神科病院。スーパー救急病棟 2 棟と急性期病棟 2 棟（閉鎖・開放）、認知症病棟などがあり、また合併症医療やリハビリテーションにも力を入れている。

29.　施設名： 群馬病院

・施設形態：精神科病院

・院長名： 柳澤　潤吾

・指導責任者氏名： 重田　理佐

・指導医人数：（　11　）人

・精神科病床数：（　461　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	137	29
F1	57	15
F2	941	202
F3	774	120
F4　F50	699	44
F4 F7 F8 F9 F50	122	19
F6	50	16
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

救急治療病棟があり、統合失調症、気分障害、神経症、人格障害、認知症など基本的な疾患を多数診察している。デイケア、社会復帰施設を持ち、リハビリテーションにも力を入れている。個人療法、集団精神療法、家族療法、芸術療法を施行している。児童精神科の患者の受け入れ可能、摂食障害向けの入院、心理教育プログラムあり。

30. 施設名：立川病院

・施設形態：総合病院

・院長名：片井　均

・指導責任者氏名：桑原　達郎

・指導医人数：（　3　）人

・精神科病床数：（　38　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	73	20
F1	52	10

F2	420	75
F3	764	72
F4　F50	420	51
F4 F7 F8 F9 F50	15	2
F6	20	5
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

立川病院精神神経科は 38 床の精神保健病床（全閉鎖）を有し、その病棟を精神身体合併症病棟と位置付けている点が大きな特徴である。保護室が 2 床、隔離室としての利用も可能な個室が 2 床、有料個室が 3 床ある。入院する身体合併症は、内科、外科、整形外科、婦人科、その他全科にわたっている。常勤医師 5 名（精神保健指定医 3 名、専攻医 2 名）で看護体制は 10:1 となっている。生命にかかわる身体病を診る一方で、心の病を持つ人たちへの慎重な配慮とサポートを、各スタッフが一体となって実践している。

また、精神科治療としては、麻酔科と連携して修正型通電療法(m-ECT)を施行しており、クロザピンの処方も可能である。院内の横断的対応として、リエゾンチーム、認知症ケアチーム、緩和ケアチーム、周産期メンタルヘルスチーム、DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team）が精神科医を中心に組成されている。小児科と連携して、CAPS(Child Abuse Prevention System)にも精神科医が関与している。東京都から認知症疾患センターの指定を受けており、脳神経内科との協働の元に、アウトリーチ活動、地域啓蒙活動に精神科医が関与している。

31. 施設名：東京歯科大学市川総合病院

・施設形態：私立大学病院

・院長名： 西田　次郎

・指導責任者氏名： 宗　未来

・指導医人数：（　1　）人

・精神科病床数：（　0　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）

F0	374	0
F1	19	0
F2	100	0
F3	243	0
F4　F50	344	0
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	13	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当施設の特徴としては、総合病院において、コンサルテーション・リエゾン精神医学の活発な実践が体験できること、充実した身体評価設備を利用した器質性精神障害の診断、治療の実践が体験できること、また、当施設は地域がん診療連携拠点病院であることから、緩和ケアチームの一員として精神腫瘍学の活発な実践が体験できることが挙げられる。

また、レアな精神障害の初発症例を経験できるだけでなく、それらを精神科医だけでなく、看護師、臨床心理士、言語聴覚士、脳画像研究者も参加しての症例検討会や、神経内科・放射線科をはじめとした他領域の専門家の意見をあおぐことも容易なことから、環境面からも、症例を多面的かつ“丁寧に”学ぶことが可能である。また、大学病院として慶應義塾大学医学部や放射線医学総合研究所(放医研)をはじめとした他施設や当院他科との共同研究もプロジェクトが複数立ち上がっており、臨床研究領域に関心のある者にはそれらに触れる機会も提供される。教育研修に力を入れて施設であるため、医療安全、感染管理、医療倫理等の各種講演会、研修会が活発に開催されており、これらの領域の学習機会にも恵まれている。希望者には、うつ病や不安症は勿論、それだけに留まらぬ多様な疾患に対する認知行動療法や対人関係療法、家族療法といったエビデンスに基づく精神療法の基本について、本格的に学ぶ機会にも恵まれる。

32. 施設名：社会医療法人栗山会　飯田病院

・施設形態：総合病院

・院長名：原　栄志

・指導責任者氏名：神庭　重信

・指導医人数：（　5　）人

・精神科病床数：（　235　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来・入院患者数（年間）
F0	165
F1	91
F2	1311
F3	1385
F4　F50	623
F4 F7 F8 F9 F50	319
F6	15
その他	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

飯田病院は明治 36 年創立で、一般科 212 床、精神科 235 床の総合病院である。その特性を生かし、認知症や精神病の身体合併症例を受け入れ、コンサルテーションリエゾンと言わずとも、一般診療科医と精神科医が日常的に診療に関する相談を行っている点が他には稀な特徴と言える。長野県最初の認知症疾患医療センターの指定を受け、SPECT、CT、MRI を擁し、神経心理判定には公認心理師と作業療法士を配し優れた診断機能を有している。

飯田病院の診療圏は、中央アルプス南端と南アルプスに囲まれた広域で、人口は約 16 万人である。そこで唯一の精神科病床であるため、全ての精神疾患に対応している。平均在院日数は約 140 日と全国及び県平均を大きく下回り、院内外多職種連携や多機能垂直統合型精神科医療とも呼べる飯田病院の精神医療保健福祉システムによるものと言える。

令和元年度より九州大学の神庭重信名誉教授を招聘し、精神科臨床研修センター長として指導をいただいている。

33. 施設名：東京都済生会中央病院

・施設形態：総合病院（公的病院、社会福祉法人恩賜財団済生会支部東京都済生会）

・院長名：海老原　全

・指導責任者氏名：仁王　進太郎

・指導医人数：（　2　）人

・精神科病床数：（　0　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1259	0
F1	16	0
F2	162	0
F3	2852	0
F4　F50	3218	0
F4 F7 F8 F9 F50	9	0
F6	28	0
その他	36	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

東京都済生会中央病院は大正 4 年に設立された 535 床の総合病院である。精神科は病床を持たないが、比較的軽症の患者が気楽に落ちついて受診できる外来環境を大切にしている。そのために神経症（F4）、気分障害（F3）が比較的多い。東京都港区の認知症疾患医療センターに指定されており、認知症（F0）も比較的多い。コンサルテーション・リエゾン症例が豊富で、せん妄、症状精神病（F0）、周産期精神疾患を経験できる。緩和ケアチームに参加しており、緩和ケアを経験することができる。カンファレンス、症例検討会を通じてエビデンスと経験をバランス良く習得できる。頭部 MRI、SPECT（ダットスキャン含む）、脳波検査、神経心理学的検査を行うことができる。

34. 東京都立小児総合医療センター

・施設形態：公的病院

・院長名：廣部　誠一

・指導責任者氏名：長沢　崇

・指導医人数：（　5　）人

・精神科病床数：（　202　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	3
F1	0	0
F2	23	22
F3	31	17
F4　F50	272	100
F4 F7 F8 F9 F50	752	372
F6	2	0
その他	10	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科は、自閉症スペクトラム障害や注意欠如多動性障害(ADHD)などの発達障害、うつ病などの気分障害、統合失調症、強迫性障害、摂食障害など児童・思春期のあらゆる精神疾患を対象としている。精神科病棟は 202 床の病床を有し、性別や年齢等に応じて 7 つの病棟に分かれている。その内訳は、男女思春期急性期病棟、男子思春期病棟、女子思春期病棟(2 病棟)、男女思春期病棟、自閉症病棟、学童病棟である。カンファレンスや症例検討会、研究会を通じて、児童・思春期精神疾患について専門的な知識と経験を得ることが可能である。

35. さいたま市立病院

・施設形態：公立総合病院

・院長名：堀之内　宏久

・指導責任者氏名：根本　康

・指導医人数：（　1　）人

・精神科病床数：（　30　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	7	185
F1	0	18

F2	18	28
F3	180	43
F4　F50	0	1
F4 F7 F8 F9 F50	216	73
F6	30	7
その他	15	11

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神科身体合併症の患者を精神病床で受け入れるが、一般病床ではリエゾン・コンサルテーションを行っており、身体状態に応じた精神科治療を行っている。特に当院は高齢者の入院が多く、認知症を含む老年期精神障害への対応が多い。また症状・器質性精神障害の症例、救急搬送された自殺企図後の症例、緩和ケア領域や周産期におけるメンタルケアの症例など、多彩な症例を経験できる。また指導医が検察庁から依頼を受けて簡易鑑定を行っており、希望があれば鑑定の陪席を検討可能である。

精神病棟を開設して間もないが、紹介元への退院以外に自宅や施設への退院が意外に多い。退院に向けた家族や地域の支援者などとの話し合いを積極的に行っており、地域との連携のあり方を学ぶこともできる。

36. 山梨大学医学部附属病院

・施設形態：国立大学法人

・院長名：榎本　信幸

・指導責任者氏名：鈴木　健文

・指導医人数：（　8　）人

・精神科病床数：（　40　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	289	12
F1	36	8
F2	683	30
F3	867	119

F4　F50	188	47
F4 F7 F8 F9 F50	41	17
F6	29	1
その他	5	6

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

山梨大学医学部附属病院 精神科は、1983 年に山梨医科大学精神科として歩みを開始し、県内のみならず国内各地で医局員が活躍している。基幹病院となる当院は 618 床を有する特定機能病院であり、精神科として 40 床の開放病棟を有している。治療抵抗性の気分障害を中心に診療を行っているが、身体合併症を併存する精神疾患を含めて幅広い精神疾患の研修を行うことが可能である。特に当科では 1986 年から麻酔科医の協力のもとで修正型電気けいれん療法（ECT）を行っており、安全性を高めた ECT は年間 200 件程度の実績があり、標準的な手技を確実に学ぶことができる。また、コンサルテーション・リエゾン活動も盛んであり、定期的な回診を行っている。加えて、2010 年 6 月より治療抵抗性の統合失調症の治療薬であるクロザピンの認定医療機関になっているほか、クロザピン認定施設である県内の精神科病院の協力医療機関にもなっている。なお、日本総合病院精神医学会、日本臨床精神神経薬理学会の研修施設になっており、これらの学会の専門医が在籍している。

37. 施設名：医療法人財団岩尾会 東京海道病院

・施設形態：民間病院

・院長名：室 愛子

・指導責任者氏名：室　愛子

・指導医人数：（ 7 ）人

・精神科病床数：（ 450 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	176	195
F1	23	28
F2	403	317

F3	232	45
F4　F50	138	10
F4 F7 F8 F9 F50	132	31
F6	5	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

西多摩医療圏の青梅市にある中核的単科精神科病院である。400 床の精神科病床と 50 床の認知症治療病床があり、精神科病床は措置入院や精神科二次救急などの急性期の受け入れから慢性期の統合失調症失調症を中心とした精神疾患全般の治療を行っている。また、医療観察法指定通院機関でもあり豊富な症例を経験することが可能である。

また、認知症治療病棟では周辺症状の治療はもとより、慢性疾患などの身体合併症に対しても総合的に治療を行うことで幅広い受け入れを行っている。今後は急性期と慢性期の機能化を図り、併設する訪問看護と協力し地域移行の取り組みや、西多摩医療圏の中では交通のアクセスが良く、周囲が工業団地であることなどよりストレスケアなども視野に入れた外来診療の充実を目指している。

38 施設名：特定医療法人群馬会　赤城高原ホスピタル

・施設形態：民間病院

・院長名：竹村　道夫

・指導責任者氏名：村山　昌惕

・指導医人数：（　2　）人

・精神科病床数：（　111　）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	入院患者数（年間）
[F2]統合失調症	0
[F3]気分(感情)障害	77
[F1]精神作用物質使用による精神および行動の障害	734

[F0]症状性を含む器質性精神障害	0
[F4,F7,F8,F9]児童・思春期精神障害（摂食障害を含む）	2
[F4(F50)]神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害（摂食障害を含む）	614
[F6]成人のパーソナリティおよび行動の障害	66

３．　研修プログラム

１）　年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。各年次の到達目標は以下の通りである。

到達目標

１年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に、統合失調症、気分障害、不安障害、器質性精神障害などの入院患者を受け持ち、面接技法、診断および治療計画、薬物療法および精神療法の基本を学ぶ。特に、面接によって情報を抽出し、診断に結び付けるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。また、リエゾン・コンサルテーション精神医学を経験する。加えて、精神保健福祉法に基づく入院形態や行動制限の適切な手続きについて学習する。精神療法の習得を目指し認知行動療法、精神分析・精神力動療法、森田療法などのカンファレンス、セミナーに参加する。連携施設間研究会や学会で発表・討論する。

２年目：基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。連携施設間研究会や学会で発表・討論する。

３年目：連携病院で、指導医から自立して診療できるようにする。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

２）　研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3）　個別項目について

①　倫理性・社会性

基幹施設においてコンサルテーション・リエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理感などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。また、連携施設では地域連携をとおして社会で活躍する他職種の専門家と交流する機会が多くあり、その中で社会人として常識ある態度や素養を求められる。また社会の中での他職種とのチームワーク医療の構築について学習する。

②　学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味のある症例については、東京都精神医学会などの地方会での発表や学術誌などへの投稿を進める。それぞれが最善の医療を行うとする中、エビデンスを整理し、現在エビデンスとして何が欠けているのか、そしてかけているものがあれば、それを自身の研究につなげていけるような姿勢を身に着ける。

③　コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1）患者関係の構築、2）チーム医療の実践、3）安全管理、4）症例プレゼンテーション技術、5）医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④　学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設および連携施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

⑤　自己学習

症例に関する文献、必読文献リスト、必読図書を指導医の指導のもと、自己学習を行う。

4）　ローテーションモデル

典型的には１年目もしくは２年目に基幹病院である慶應義塾大学病院をローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につける。２年目に慶應義塾大学病院をローテートす

る者は、１年目は単科精神科病院をローテートする。

２～３年目には総合病院精神科、単科精神科病院を原則各１年ずつローテートし、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。これら３年間のローテートについては、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。

また、児童思春期、リエゾン精神医学に強い興味を持つ場合は、本人の希望に応じて、多彩なローテートパターンが可能である。この場合、２もしくは３年目に、島田療育センター、国立がん研究センター東病院、国立がん研究センター中央病院、埼玉医科大学総合医療センターの中から１ヶ所を１年選定する。主なローテーションパターンについて、別紙１に示す。

連携プログラム（地域研修コース）に則って研修する専攻医は、１年目もしくは２年目に基幹病院である慶應義塾大学病院をローテートし、残る２年間、東京都外の連携施設に１年ずつもしくは２年間ローテートする。

５）　研修の週間・年間計画

別紙２と別紙３を参照。

いずれの施設においても、就業時間が週 40 時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

４．　プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

- 委員長　医師：内田裕之
- 医師：菊地俊暁
- 医師：加藤隆
- 医師：中原理佳
- 医師：喜田恒
- 医師：宮田量治
- 医師：半田貴士
- 医師：船山道隆
- 医師：斎藤寿昭
- 医師：野村健介
- 医師：志々田一宏
- 医師：角田健一
- 医師：中山綾子
- 医師：木村充
- 医師：中谷真樹
- 医師：小口芳世

- 医師：林田文子
- 医師：小川朝生
- 医師：吉益晴夫
- 医師：女屋光基
- 医師：大島健一
- 医師：田邉英一
- 医師：武田龍太郎
- 医師：後藤晶子
- 医師：木下文彦
- 医師：古野毅彦
- 医師：田亮介
- 医師：岩下覚
- 医師：林直樹
- 医師：重田理佐
- 医師：桑原達郎
- 医師：宗未来
- 医師：仁王進太郎
- 医師：長沢崇
- 医師：根本康
- 医師：鈴木健文
- 医師：野田隆政
- 医師：室愛子
- 医師：神庭重信
- 医師：村山昌惕
- 看護師：月岡澄子
- 精神保健福祉士：鹿島明

・プログラム統括責任者
内田裕之

・連携施設における委員会組織
各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5．　評価について

1）評価体制

慶應義塾大学病院：内田裕之
つつじメンタルホスピタル：加藤隆
国立がん研究センター中央病院：中原理佳

あさかホスピタル：喜田恒
山梨県立北病院：宮田量治
厚生協会大泉病院：半田貴士
足利赤十字病院：船山道隆
川崎市立川崎病院：斎藤寿昭
日本心身障害児協会島田療育センター：野村健介
横浜市立市民病院：志々田一宏
医療法人くすのき会南飯能病院：角田健一
日本鋼管病院：中山綾子
久里浜医療センター：木村充
住吉病院：中谷真樹
聖マリアンナ医科大学病院：小口芳世
独立行政法人地域医療機能推進機構　埼玉メディカルセンター：林田文子
国立がん研究センター東病院精神腫瘍科：小川朝生
国立精神・神経医療研究センター：野田隆政
埼玉医科大学総合医療センター：吉益晴夫
下総精神医療センター：女屋光基
東京都立松沢病院：大島健一
慈雲堂病院：田邉英一
医療法人慶神会武田病院：武田龍太郎
鶴が丘ガーデンホスピタル：後藤晶子
公益財団法人　井之頭病院：木下文彦
東京医療センター：古野毅彦
医療法人財団青溪会 駒木野病院：田亮介
桜ヶ丘記念病院：岩下覚
東京武蔵野病院：林直樹
群馬病院：重田理佐
立川病院：桑原達郎
東京歯科大学市川総合病院：宗未来
東京都済生会中央病院：仁王進太郎
東京都立小児総合医療センター：長沢崇
さいたま市立病院：根本康
山梨大学医学部附属病院：鈴木健文
東京海道病院：室愛子
飯田病院：神庭重信
赤城高原ホスピタル：村山昌惕

２）評価時期と評価方法

・３か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
・研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ６ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
・１年後に１年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
・その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

３）研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」（別紙）に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研究カリキュラムに則り、少なくとも年１回おこなう。

慶應義塾大学病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

－専攻医研修マニュアル（別紙）

－指導医マニュアル（別紙）

・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に１回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年１回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

６．　全体の管理運営体制

１）　専攻医の就業環境の整備（労務管理）

専攻医の就業はそれぞれの研修施設の就業規則に則って行われるが、就業環境の整備が必要な時は、各施設の労務管理者が適切に行う。

２）　専攻医の心身の健康管理

施設で行われる定期的健康診断（２回）のほかに、心身の不調がある時は、研修指導医を通して、しかるべき部署で対応する。

３）　プログラムの改善・改良

プログラムの点検、評価、ならびに改善・改良は、各研修施設で定期的に行うが、全体として改善・改良の必要がないかどうかを、プログラム統括責任者の下で、研

修施設群のプログラム責任者によってつくられるプログラム管理委員会で、年に１回検討する。

４）　ＦＤの計画・実施

年１回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

別紙１

別紙１ ローテーションの例

基幹病院、総合病院、公的単科病院を軸に、専攻医のニーズに応じて多様な研修パターンが用意可能である。

別紙２

週間スケジュール

①慶應義塾大学病院

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土（第 2，4，5）</th></tr>
<tr><td>8:30-9:00</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td></tr>
<tr><td>9:00-10:00</td><td rowspan="3">外来・病棟業務</td><td rowspan="3">外来・病棟業務</td><td>外来・病棟業務</td><td rowspan="3">外来・病棟業務</td><td rowspan="3">外来・病棟業務</td><td rowspan="3">外来・病棟業務</td></tr>
<tr><td>10：00-11:00</td><td>病棟カンファ</td></tr>
<tr><td>11：00-12:00</td><td>外来・病棟業務</td></tr>
<tr><td>13:00-15:00</td><td rowspan="3">病棟業務（リエゾン含む）</td><td rowspan="3">病棟業務（リエゾン含む）</td><td>入退院カンファ</td><td rowspan="3">病棟業務（リエゾン含む）</td><td rowspan="3">病棟業務（リエゾン含む）</td><td rowspan="3">病棟業務（リエゾン含む）</td></tr>
<tr><td>15:00-16:00</td><td>教授回診</td></tr>
<tr><td>16:00-16:30</td><td>病棟業務（リエゾン含む）</td></tr>
<tr><td>17:00-18:00</td><td></td><td></td><td>リエゾンカンファ・抄読会・症例検討会</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>18：00-19：00</td><td></td><td></td><td>通年講義</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

19：00- 20：00			通年講義	神経内科合同症例検討会（3 か月に 1 回）		

②つつじメンタルホスピタル

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	病棟業務	初診外来	病棟業務	初診外来	再診外来
13:00-17:00	病棟業務	病棟業務	新入院カンファレンス 回診	病棟業務	病棟業務
17:00-18:00	病棟業務	症例検討会	クルズス	症例検討会	病棟業務

③国立がん研究センター中央病院

	月	火	水	木	金
08:30- 09:00	ミーティング （医局会）	病棟業務・小児科カンファ	病棟業務	病棟業務	新患カンファレンス
09:00- 12:00	病棟業務	科長回診	緩和ケアチーム カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟業務
13:00- 17:15	外来予診 病棟業務・病棟カンファレンス	外来予診 病棟業務・病棟カンファレンス	外来予診 病棟業務・病棟カンファレンス	外来予診 病棟業務・病棟カンファレンス	外来予診 病棟業務・病棟カンファレンス
17:15- 18:30	論文輪読会・ 研究会				
18:30- 19:30				多地点症例検討会（隔週）	

④あさかホスピタル

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	病棟業務	9：00-10：00 救急病棟ミーティング 10：00-12：00 病棟業務	外来業務		病棟業務	外来業務
13:00- 18:00	救急外来担当病棟業務	13：00-17：30 病棟業務 17：00-19:00　医局会　（症例検討会・医局研修会）	病棟業務		救急外来担当病棟業務	病棟業務

⑤山梨県立北病院

	月	火	水	木	金
午前	外来研修（初診/再診）、病棟研修	外来研修（初診/再診）、病棟研修、m-ECT	外来研修（初診/再診）、病棟研修	外来研修（初診/再診）、病棟研修 m-ECT	外来研修（初診/再診）、病棟研修 m-ECT
午後	病棟研修 クルズス 1A病棟カンファレンス	病棟研修 病棟カンファレンス	病棟研修 クルズス	病棟研修 クルズス デイケアミーティング	病棟研修 デイケアミーティング
17 時以降	指定医・専門医レポート講習* この症例に学ぶ＊	文献抄読会*	児童相談所・精神保健福祉センター*	医局会（症例検討**） AA*	

⑥大泉病院

	月	火	水	木	金
9：00-11：00	修正通電療法	外来業務	修正通電療法	外来初診・新入院当番	修正通電療法
11:00-12：00	病棟業務		病棟業務		病棟業務
13：00-15：00	病棟業務	病棟業務	院長回診・入院カンファレンス	外来初診・新入院当番	病棟業務
15：00-17：00			病棟業務		

⑦足利赤十字

	月	火	水	木	金
8:30-12:30	回診、外来予診、病棟業務	月と同じ	月と同じ	月と同じ	月と同じ
12:30-13:30	カンファレンス、適宜勉強会	月と同じ	月と同じ	月と同じ	月と同じ
14:00-17:00	病棟業務	月と同じ	月と同じ	月と同じ	月と同じ
17:00-8:30	オンコールが週 2 回				

⑧川崎市立川崎病院

	月	火	水	木	金
9-10 時	リエゾンおよび病棟番	病棟業務・初診陪席	外来（再診）	リエゾンおよび病棟番	病棟業務
10-11 時					
11-12 時				11 時 00 分　病棟回診	
13-14 時	リエゾンおよび病棟番	病棟業務	基幹病院での研修	リエゾンおよび病棟番	病棟業務
14-15 時				14 時 30 分　病棟カンファレンス	
15-16 時				リエゾンおよび病棟番	
16-17 時					
17-18 時		医局カンファレンス			

⑨日本心身障害児協会島田療育センター

	月	火	水	木	金
9：00～10：30	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	外来予診・陪診
10：30～12：00	リハビリカンファレンス	SST	ペアレントトレーニング	病棟業務	外来予診・陪診
12：00～13：30	医局会・昼食など	昼食など	昼食など	PCIT への参加	昼食など
13：30～14：00	合同カンファレンス	外来予診・陪診	児童精神科カンファレンス	昼食など	外来予診・陪診
14：00～15：30	外来予診・陪診	外来予診・陪診	リエゾン回診	外来予診・陪診	SST
15：30～17：45	外来予診・陪診	外来予診・陪診	小講義	外来予診・陪診	外来予診・陪診

⑩横浜市立市民病院

	月	火	水	木	金
～8:45	ICU・HCU 回診				
8:45～12:30	外来予診・初診傍診				
午前・午後	病棟受け持ち患者診察・病棟併診				
ミーティング・カンファレンスその他	産科病棟カンファレンス(第 1, 3 週　13:45～14:15) 緩和ケアチーム回診(14:15～16:00)		病棟ミーティング(15:00～15:30) 精神科リエゾンチーム回診(15:30～16:30)	緩和ケア病棟カンファレンス	精神科リエゾンチームカンファレンス・回診(13:30～16:00)
	外来カンファレンス(16:00～17:00)	研究会(17:00～19:00)	院内学級カンファレンス(月 1 回　16:00～17:00)		

⑪医療法人くすのき会南飯能病院

	月	火	水	木	金
8:45-9:00	外来予診	外来予診	外来予診	外来予診	外来予診
9:00-12:00	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務
13:00-16:00	病棟業務	医局会	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:00-17:15	研究会	入退院カンファレンス	論文輪読会	病棟業務	レジデントカンファレンス

⑫日本鋼管病院

	月	火	水	木	金
8:15－8：30		医局会(第4のみ)			
8：45－12：00	外来診療	外来診療	外勤日	外来診療	外来診療
13：00－14：30	外来診療・リエゾン	外来診療・リエゾン		外来診療・リエゾン	外来診療・リエゾン
14：30－15：30	症例検討会	症例検討会		PSW・看護師合同カンファレンス	抄読会
14：30－17：15	外来診療・リエゾン	外来診療・リエゾン		外来診療・リエゾン	外来診療・リエゾン

⑬国立病院機構久里浜医療センター

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	外来予診	外来予診	外来予診	外来予診	外来予診
9:00-12:00	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務
13:00-16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟カンファレンス	病棟業務
16:00-18:00	医局会 論文輪読会	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務

⑭住吉病院

	月	火	水	木	金
8:45～12:00	病棟回診	外来初診	デイケア	外来再診	病棟回診
12:30～15:00	医局会			アルコール例会	
13:00～17:45		訪問看護	外来初診（予診・陪席）	病棟回診	デイケア
15:00～17:30	病棟回診				
17:30～18:30	院長勉強会（隔週）				

⑮聖マリアンナ医科大学病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	抄読会				抄読会あるいは医局会
9:00-12:00	チームカンファレンス 病棟業務	外来予診 あるいは外勤	教授陪診	外来予診 リエゾン	チームカンファレンス 病棟業務
13:00-16:00	教授回診	病棟業務 あるいは外勤	病棟業務	病棟業務	入退院会議
16:00-17:00	病棟ケースカンファ	病棟業務 あるいは外勤	病棟業務	病棟業務	病棟業務
19:00-20:00	クルズス（不定期）				臨床精神医学研究会（年５回） 精神療法セミナー（不定期）

⑯独立行政法人地域医療機能推進機構　埼玉メディカルセンター

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
9:00-12:30	外来初診(予診・陪席)	外来初診(予診・陪席)	外来初診(予診・陪席)	外来初診(予診・陪席)	外来初診(予診・陪席)
13:30-14:00	病棟カンファレンス	病棟業務、リエゾン	病棟業務、リエゾン	病棟業務、リエゾン	緩和ケアチーム回診
14:00-14:30	外来カンファレンス	集団精神療法		集団精神療法	病棟業務、リエゾン
14:30-17:00	病棟業務、リエゾン		付属老健施設回診		
17:00-17:30	医局会/ミーテイング	病棟業務、リエゾン	勉強会	病棟業務、リエゾン	
17:30	論文輪読会				

※適宜、指導医との症例のディスカッション、文献検索を行い、精神科専門医として必要とされる知識、技能の習得を目指します。

⑰国立がん研究センター東病院精神腫瘍科

	月	火	水	木	金
8:30	電話会議	臨床ミーティング	支持療法チームカンファレンス	臨床ミーティング	臨床ミーティング
9:15	臨床ミーティング	緩和医療科合同症例検討会	臨床ミーティング		
～12：00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
18:00	多施設抄読会		研究ミーティング	多施設症例検討会	

⑱国府台病院

	月	火	水	木	金
8：30–9：30	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	児童精神科カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス
9：30–11：30	初診	外来	児童精神科カンファレンス	外来	外来
13：00–14：00	病棟	外来	病棟レビュー	外来	外来
14：00–16：00	病棟	精神科医局会	特別病棟連絡会	外来	外来
16：00–	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
18：00–				研究会	

⑲埼玉医科大学総合医療センター

	月	火	水	木	金
9:00–12:00	外来・リエゾン	外来・リエゾン	外来・リエゾン	外来・リエゾン	外来・リエゾン
12:30–13:00	ランチョンセミナー				
13:00–16:00	外来・リエゾン	緩和ケアミーティング		外来・リエゾン	外来・リエゾン
16:00–17:00	症例検討会				勉強会・輪読会
備考	全員集合日				全員集合日

⑳下総精神医療センター

	月	火	水	木	金
8：30-12：00	院長回診，　病棟カンファレンス	外来診療,病棟業務	外来診療	外来診療,病棟業務	外来診療
13：00-14：00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
14：00-15：00	医局カンファレンス	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
15：00-17：15	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務

㉑東京都立松沢病院

	月	火	水	木	金
0830-0900	病棟ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ	病棟ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ	病棟ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ	病棟ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ	病棟ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ
0900-1200	病棟業務	病棟業務 新患予診	病棟業務	病棟ｶﾝﾌｧ	病棟業務
12015-1315	ｸﾙｽﾞｽ			ｸﾙｽﾞｽ	
1330-1700	病棟業務 入退院ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	院長回診 病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
	1630-1800 ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	1715～1800 医局会			
1815-2045		集談会・講演会（月１回）			

㉒慈雲堂病院

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	病棟業務	病棟業務	外来診療	院長回診	病棟業務
13:00-16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:00-17:00	新入院カンファレンス	病棟業務	病棟業務	医局会・症例検討会	病棟業務

㉓医療法人慶神会武田病院

	月	火	水	木	金
8 時 45 分～9 時 30 分	連絡調整会議・入院患者申し送り	連絡調整会議・入院患者申し送り	連絡調整会議・入院患者申し送り	連絡調整会議・入院患者申し送り	連絡調整会議・入院患者申し送り
9 時 30 分～11 時	外来診察	入院診察	外来診察	入院診察	外来診察
11 時～12 時	入院診察	退院支援委員会/調整会議	入院診察	退院支援委員会/調整会議	入院診察
12 時 15 分～13 時	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13 時～14 時	入院診察	入院診察	診療部合同ミーティング	入院診察	入院診察
14 時～15 時	病棟スタッフミーティング	病棟スタッフミーティング	入院集団精神療法	病棟スタッフミーティング	病棟スタッフミーティング
15 時～17 時 30 分	入院統合失調症心理教育	リワークＤＣ心理教育	入院診察	病棟診察	入院気分障害心理教育
17 時 30 分～18 時 30 分	医局会		事例検討会・症例指導		

㉔鶴が丘ガーデンホスピタル

	月	火	水	木	金
9:00ー９：３０	病棟ラウンド	病棟ラウンド	病棟ラウンド	病棟ラウンド	病棟ラウンド
9:30－９：４０	朝ミーティング参加	朝ミーティング参加	朝ミーティング参加	朝ミーティング参加	朝ミーティング参加
9:40-12:00	外来陪審	外来陪審	外来陪審	外来陪審	外来陪審
13:00ー	病棟診察	病棟診察	医局会	病棟診察	病棟診察
		（訪問診療）	症例検討会	治療プログラム参加	
			各種委員会参加		
			研修会		

㉕公益財団法人　井之頭病院

	月	火	水	木	金
9:00-9:10	医局ミーティング	医局ミーティング	医局ミーティング	医局ミーティング	医局ミーティング
9:10-12:30	外来（再診）陪席	病棟業務	外来（初診・入院）陪席	病棟業務	院長回診
13:30-18:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務 医局会議・症例検討会等	病棟業務

㉖東京医療センター

	月	火	水	木	金
8:30-12:00	外来初診	病棟業務	ＥＣＴ、病棟業務	リエゾン	外来再診
13:00-13:30	外来初診	病棟カンファレンス	病棟業務	リエゾン	外来再診
13:30-14:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	多職種カンファレンス	外来再診
14:00-16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	医長回診	ＳＳＴ、外来再診
16:00-17:30	入退院カンファレンス	病棟業務	病棟業務	症例カンファレンス	病棟業務
17:30-18:00	抄読会				

㉗医療法人財団青溪会 駒木野病院

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	病棟業務・病棟カンファ	病棟業務	休み	病棟業務	病棟業務	病棟業務
12:30-13:00	医局会（第１）					
	薬の説明会					
13:00-16:30	病棟業務	病棟業務		病棟業務	病棟業務	病棟業務
17:00-18:30	医局会（第３）					
	医局勉強会					

㉘桜ヶ丘記念病院

	月	火	水	木	金
8：30～9：00	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス
9：00～12：00	外来予診察・病棟勤務	外来予診察・病棟勤務	外来予診察・病棟勤務	外来予診察・病棟勤務	外来予診察・病棟勤務
13：00～13：30	ﾆｭｰｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務
13：30～16：30	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務
16：30～17：00	病棟勤務	病棟勤務	ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ・診療会議	病棟勤務	病棟勤務

㉙東京武蔵野病院

	月	火	水	木	金
8:00～9:00	クルズス				クルズス
8:30～9:00	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り
9:00～12:00	外来予診・陪席	病棟業務	外来予診・陪席	病棟業務	外来予診・陪席
13:00～16:00	入退院カンファレンス	病棟業務	病棟業務	行動制限カンファレンス	訪問同行
16:00～17:00	診療部会	病棟業務	病棟業務	病棟業務	訪問同行
17:00～18:00	症例検討会			抄読会	

㉚群馬病院

	月	火	水	木	金
午前	初診外来陪席	病棟	病棟	初診外来陪席	病棟
午後	児童思春期外来陪席	病棟	病棟	集団精神療法	病棟
		クルズス	電気けいれん療法		クルズス

㉛ 立川病院

	月	火	水	木	金
8:30-12:30	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務
13:30-14:00	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス
14:00-17:15	外来・病棟業務	緩和ケア回診 リエゾン回診	外来・病棟業務	外来・病棟業務	外来・病棟業務
17:15-18:10		症例検討会 新入院カンファレンス			

㉜　東京歯科大学市川総合病院

月曜日　朝：スタッフミーティング
　　午前：指導医外来陪席（予診含み、その症例診察後個別討論）
　　午後：入院診療カンファレンス、入院、リエゾン、緩和診療
　　夕：外来診療カンファレンス、症例検討会
火曜日　午前：外来診療（適宜指導医が陪席）
　　午後：入院、リエゾン、緩和診療
　　夕：緩和ケアカンファレンス
水曜日　午前：外来診療
　　午後：入院、リエゾン、緩和診療
木曜日　午前：指導医外来陪席（予診含み、その症例診察後個別討論）
　　午後：入院、リエゾン、緩和診療
　　指導医講義、心理士・言語聴覚士の実習・講義
金曜日　午前：半日休
　　午後：入院、リエゾン、緩和診療
　　夕：指導医個別症例指導
土曜日　午前：入院、リエゾン、緩和診療

㉝医療法人社団葛野会　木野崎病院

	月	火	水	木	金	土
9:00-9:30	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング
9:30-12:00	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務

12:00-14:00	外来業務 昼食 病棟業務	外来業務 昼食 病棟業務	外来業務 昼食 病棟業務	外来業務 昼食 病棟業務	外来業務 昼食 病棟業務	外来業務 昼食 病棟業務
14:00-17:00	病棟業務	病棟業務 （月 1 回） 院内研修会 医局連絡会	病棟業務 （月 1 回） 医療安全実行委員会研修	病棟業務	病棟業務	病棟業務
17:00-18:00	自主研究	ケース・スーパービジョン 随時 自主研究	ケース・スーパービジョン 随時 自主研究	自主研究	ケース・スーパービジョン 随時 自主研究	ケース・スーパービジョン 随時 自主研究

㉞東京都済生会中央病院

	月	火	水	木	金	土（第 2，4 は休み）
9:00～12:00	初診外来 陪席	外来 リエゾン	外来 リエゾン	外来 リエゾン	外来 リエゾン	外来業務 リエゾン
12:00～13:00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	―
13:00～17:30	外来 リエゾン リエゾン回診	外来 リエゾン	外来 リエゾン	外来 リエゾン	外来 リエゾン カンファレンス 緩和ケア回診	―

㉟東京都立小児総合医療センター

	月	火	水	木	金
8：30 ～ 9：00	精神科 病棟申し送り	精神科 病棟申し送り	精神科 病棟申し送り	精神科 病棟申し送り	精神科 病棟申し送り

9：00 ～ 12：00	病棟業務 （リエゾン含む）	病棟業務 （リエゾン含む）	病棟業務 （リエゾン含む）	外来	病棟業務 （リエゾン含む）
13：00 ～ 17：15	病棟業務 （リエゾン含む）	病棟業務 （リエゾン含む） 13：30～認知症ケアチーム回診	病棟業務 （リエゾン含む）	病棟業務 （リエゾン含む） 14：00～緩和ケアチーム回診	病棟業務 （リエゾン含む）
17：30 ～	医局カンファレンス		講義		

㊱ さいたま市立病院

	月	火	水	木	金
8：30 ～ 9：00	精神科 病棟申し送り 救急科とのカンファレンス	精神科 病棟申し送り	精神科 病棟申し送り 救急科とのカンファレンス	精神科 病棟申し送り	精神科 病棟申し送り 救急科とのカンファレンス
9：00 ～ 12：00	病棟業務 （リエゾン含む）	病棟業務 （リエゾン含む）	病棟業務 （リエゾン含む）	外来	病棟業務 （リエゾン含む）
13：00 ～ 17：15	病棟業務 （リエゾン含む）	病棟業務 （リエゾン含む） 13：30～認知症ケアチーム回診	病棟業務 （リエゾン含む）	病棟業務 （リエゾン含む） 14：00～緩和ケアチーム回診	病棟業務 （リエゾン含む）
17：30 ～	医局カンファレンス		講義		

㊲山梨大学医学部附属病院

	月	火	水	木	金
8：30 ～ 9：00	病棟回診 カンファレンス	病棟回診 カンファレンス	病棟回診 カンファレンス	病棟回診 カンファレンス	病棟回診 カンファレンス
9：00 ～ 12：00	病棟業務 ECT	病棟業務 外来業務	病棟業務 ECT	病棟業務 外来業務	病棟業務 ECT
13：00 ～ 17：15	教授回診 症例検討会 研究会 CLS 回診 病棟業務 医局会	病棟業務 ミニレクチャー	病棟業務 抄読会	病棟業務 ミニレクチャー	病棟業務 CLS 回診 グループ・ カンファレンス

CLS：コンサルテーション・リエゾン　サービス
ECT：電気けいれん療法
外勤日：火または木

別紙３

年間スケジュール

①慶應義塾大学病院

	内容
4 月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5 月	教室研究会（プログラム全体）参加
6 月	ポートフォリオ面談での形成的評価 前年度研修実績報告書提出 日本精神神経学会学術総会参加
7 月	東京精神医学会参加
8 月	
9 月	教室研究会（プログラム全体）参加
10 月	ポートフォリオ面談での形成的評価 SR1・2・3 研修中間報告書提出
11 月	東京精神医学会参加
12 月	研修プログラム管理委員会参加 教室研究会参加
1 月	ポートフォリオ面談での形成的評価
2 月	
3 月	研修プログラム評価報告書の作成 SR1・2・3 研修報告書の作成 教室研究会（プログラム全体）参加 東京精神医学会参加

②つつじメンタルホスピタル

	内容
4 月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告提出
5 月	教室研究会参加/地域研究会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	
9 月	県精神科集談会参加
10 月	教室研究会参加/地域研究会参加
11 月	地方精神神経学会参加・演題発表
12 月	研修プログラム管理委員会参加
1 月	地域研究会参加
2 月	地方精神神経学会参加・演題発表
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

③国立がん研究センター中央病院

	内容
4 月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告書提出
5 月	
6 月	日本緩和医療学会学術総会参加
	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	東京サイコオンコロジーネットワーク参加
8 月	
9 月	日本サイコオンコロジー学会総会参加
10 月	国際サイコオンコロジー学会参加
11 月	日本総合病院精神医学会総会参加
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

④あさかホスピタル

	内容
4 月	オリエンテーション（院内） 院長基本方針（院内） 総合診療検討会（院内）
5 月	感染対策研修会（院内） 総合診療検討会（院内）
6 月	医療安全研修会（院内） 日本精神神経学会学術総会参加（院外） 総合診療検討会（院内）
7 月	診療録管理研修会（院内） 精神保健福祉法研修会（院内） 総合診療検討会（院内） 東京精神医学会（院外）
8 月	安全衛生研修会（院内） 総合診療検討会（院内）
9 月	あさかフェスティバル（院内） 総合診療検討会（院内）
10 月	総合診療検討会（院内）
11 月	感染対策研修会（院内） 医療安全・人権擁護研修会（院内） 医薬品安全管理研修会（院内） 褥瘡対策研修会（院内） 総合診療検討会（院内） 東京精神医学会（院外）
12 月	医療ガス保安研修会（院内） 総合診療検討会（院内）
1 月	医療サービス向上研修会（院内） 総合診療検討会（院内）
2 月	医療安全研修会（院内）　ＮＳ Ｔ研修会（院内）　総合 診療検討会（院内）　福島精神 医学会（院外、発表）
3 月	研修プログラム評価報告書の作成 総合診療検討会（院内）　東京 精神医学会（院外）

⑤山梨県立北病院

	内容
4 月	新任者研修、見学中心のカリキュラム
5 月	見学中心のカリキュラム
6 月	見学中心のカリキュラム、精神神経学会総会
7 月	指導下での診療開始
8 月	
9 月	
10 月	教室研究会参加
11 月	オータムセミナー
12 月	
1 月	
2 月	院内学術研究発表会
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

⑥大泉病院

	内容
4 月	オリエンテーション／指導医の指導実績報告提出
5 月	教室研究会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	教室研究会参加
9 月	デイケア家族会
10 月	
11 月	東京精神医学会参加・演題発表
12 月	研修プログラム管理委員会参加／教室研究会参加
1 月	
2 月	
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

⑦足利赤十字

	内容
4 月	病棟および外来のオリエンテーション、指導医と診察開始
5 月	系統講義開始
6 月	病棟内でのケースプレゼンテーション
7 月	指導医と入院治療の方向性や薬物療法の計画を立てる
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	
12 月	地方会発表の準備
1 月	
2 月	栃木精神医学発表
3 月	

⑧川崎市立川崎病院

	内容
4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	六郷川精神科医療懇話会参加（大学精神神経医学講座との研究会）
8 月	
9 月	
10 月	日本児童青年精神医学会総会参加/市精神科医会講演参加
11 月	日本総合病院精神医学会総会参加
12 月	
1 月	日本社会精神医学会参加
2 月	川崎精神病理研究会参加/六郷川精神科医療懇話会参加
3 月	研修プログラム評価報告書の作成/市精神科医会講演参加

⑨日本心身障害児協会島田療育センター

	内容
4 月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告書提出
5 月	教室研究会への参加
6 月	日本精神神経学会学術総会への参加
7 月	
8 月	ティーチャートレーニングへの参加
9 月	
10 月	教室研究会への参加
11 月	日本児童青年精神医学会総会への参加
12 月	研修プログラム管理委員会への参加
1 月	
2 月	島田療育センター公開シンポジウムへの参加
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

⑩横浜市立市民病院

	内容
4 月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告提出
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	日本総合病院精神医学会有床フォーラム参加
8 月	精神科リエゾンチーム講習会参加
9 月	
10 月	日本児童青年精神医学会総会参加・演題発表
11 月	日本総合病院精神医学会総会参加
12 月	
1 月	
2 月	地方研究会参加
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

⑪医療法人くすのき会南飯能病院

	内容
4 月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告提出
5 月	教室研究会参加/県精神科集談会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加（任意）
7 月	
8 月	
9 月	県精神科集談会参加
10 月	教室研究会参加
11 月	日本臨床精神薬理学会参加・演題発表（任意）
12 月	研修プログラム管理委員会参加
1 月	
2 月	地方精神神経学会参加・演題発表
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

⑫日本鋼管病院

	内容
4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会総会参加
7 月	
8 月	日本うつ病学会参加（任意）
9 月	
10 月	
11 月	日本総合病院精神医学　学術総会参加
12 月	院内学会参加
1 月	
2 月	
3 月	

⑬国立病院機構久里浜医療センター

	内容
4 月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告提出
5 月	横須賀三浦精神科医会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 アルコール依存症臨床医等研修参加
7 月	国立病院機構精神科レジデントフォーラム参加
8 月	
9 月	久里浜・釜山合同ワークショップ参加
10 月	アルコール関連問題学会参加
11 月	アルコール依存症臨床医等研修参加
12 月	研修プログラム管理委員会参加
1 月	アルコール依存症回復施設職員研修参加
2 月	神奈川県精神神経学会参加・演題発表
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

⑭住吉病院

	内容
4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	新人研修
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	研究発表大会
12 月	酒なし忘年会（アルコールセンター）
1 月	
2 月	
3 月	

その他

入退院カンファレンス、パスミーティング及び症例検討会（随時）

診療会議（１回／月）

行動制限委員会（１回／月）、

ＩＰＳ援助付き雇用勉強会（１回／月）

ご家族のつどい（家族心理教育）（デイケア（１回／月）

各種スタッフミーティング（ＯＴ、レク、アルコール（１回／月））

行軍（１回／月）
マーサウの会（摂食障害の家族の会）（２回／月）
山梨県精神医学研究会（年３回　不定期）

⑮聖マリアンナ医科大学病院

	内容
4 月	オリエンテーション 各種クルズス SR1 研修開始 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5 月	多摩田園臨床精神医学研究会参加
6 月	ポートフォリオ面談での形成的評価 前年度研修実績報告書提出 日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意） 日本司法精神医学会参加（任意）
7 月	多摩田園臨床精神医学研究会参加 日本うつ病学会参加（任意）
8 月	教室精神療法セミナー参加
9 月	多摩田園臨床精神医学研究会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
10 月	ポートフォリオ面談での形成的評価 SR1・2・3 研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意） 日本神経精神薬理学会参加（任意） 日本児童青年精神医学会参加（任意）
11 月	専攻医採用面接 多摩田園臨床精神医学研究会参加 地方精神神経学会参加・演題発表
12 月	教室集談会参加・演題発表 研修プログラム管理委員会開催 日本精神保健・予防学会参加（任意） 日本精神科救急学会参加（任意）
1 月	ポートフォリオ面談での形成的評価
2 月	多摩田園臨床精神医学研究会参加
3 月	総括的評価 SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会参加（任意）

⑯独立行政法人地域医療機能推進機構　埼玉メディカルセンター

	内容
4 月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告提出
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	さいたま市地域医療懇話会参加
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	
12 月	研修プログラム管理委員会参加
1 月	さいたま市地域医療懇話会参加
2 月	地方精神神経学会参加・演題発表
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

⑰国立がん研究センター東病院精神腫瘍科

	内容
4 月	オリエンテーション、県総合病院精神科研究会
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加、せん妄対応プログラム研修
7 月	
8 月	
9 月	日本サイコオンコロジー学会参加、緩和ケア研修会参加
10 月	
11 月	総合病院精神医学会参加
12 月	院内研究ワークカンファレンス参加
1 月	総合病院における認知症教育プログラム研修
2 月	
3 月	

⑱国府台病院

	内容
4 月	東京児童精神医学研究会、国府台児童精神医学研究会
5 月	
6 月	日本精神神経学会、病棟・鋸山遠足
7 月	欧州児童青年精神医学会、病棟キャンプ
8 月	国際児童青年精神医学会
9 月	国府台児童精神医学研究会
10 月	児童精神薬物療法研究会
11 月	日本児童青年精神医学会
12 月	病棟クリスマス会
1 月	千葉県児童青年精神医学研究会
2 月	厚生労働省こころの健康づくり事業思春期精神保健研修
3 月	集団精神療法学会発表、病棟お別れ会

⑲埼玉医科大学総合医療センター

	内容
4 月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告提出
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	
12 月	
1 月	さいたま市地域医療懇話会参加
2 月	地方精神神経学会参加・演題発表
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

⑳下総精神医療センター

	内　　容
4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加、日本司法精神医学会参加、日本老年精神医学会参加
7 月	国立病院機構精神科レジデントフォーラム参加
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	国立病院総合医学会参加
12 月	アルコール・薬物関連問題研修
1 月	
2 月	
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

その他	統合失調症家族教室(月 1 回) 刑事鑑定カンファレンス(随時)

㉑東京都立松沢病院

4 月	オリエンテーション 1 年目専攻医研修開始 2・3 年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	東京精神医学会学術集会参加（任意）
8 月	
9 月	日本生物学的精神医学会年会（任意）
10 月	1・2・3 年目専攻医研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会年会（任意）
11 月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意） 東京精神医学会学術集会参加（任意）
12 月	
1 月	
2 月	２年目専攻生東京医師アカデミー研究発表
3 月	1・2・3 年目専攻医研修報告書作成 東京精神医学会学術集会参加（任意）

㉒慈雲堂病院

	内容
4 月	オリエンテーション・クルズス/指導医の指導実績報告提出
5 月	クルズス
6 月	精神神経学会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	東京精神医学会参加
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	東京精神医学会参加・演題発表/研修プログラム評価報告書の作成

㉓医療法人慶神会武田病院

	内容
4 月	オリエンテーションおよび入院治療の実際、精神保健福祉法の運用についてのクルズス
5 月	入院治療の実際、精神保健福祉法の運用についてのクルズス
6 月	入院集団精神療法/集団心理教育プログラムへの参加
7 月	川崎市 QOL 研究会（地域周辺医療機関合同研究会）への参加/発表
8 月	入職後の振り返り面談・院内合同研究発表会へ向けての検討
9 月	院内事例検討会における症例発表/集団家族心理教育プログラムへの参加
10 月	リワークデイケアプログラムにおける集団認知行動療法への参加
11 月	院内合同研究発表会
12 月	訪問看護への同行
1 月	
2 月	これまでの振り返りと残る課題の抽出
3 月	研修内容のチェック

㉔鶴が丘ガーデンホスピタル

	内容
4 月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告提出
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	
12 月	研修プログラム管理委員会参加
1 月	
2 月	院内発表
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

㉕公益財団法人　井之頭病院

	内容
4 月	新入職者オリエンテーション／指導医指導実績報告提出
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加、日本老年精神医学会大会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	
12 月	研修プログラム管理委員会参加
1 月	
2 月	
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

㉖東京医療センター

	内容
4 月	オリエンテーション/世田谷区自殺対策会議参加
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	国立病院機構精神科レジデントフォーラム参加
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	日本総合病院精神医学会参加
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

㉗医療法人財団青溪会 駒木野病院

	内容
4 月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告提出
5 月	教室研究会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	教室研究会参加
11 月	
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

㉘桜ヶ丘記念病院

	内容
4 月	オリエンテーション・指導医の指導実績報告提出 急性期治療病棟勤務
5 月	急性期治療病棟勤務
6 月	急性期治療病棟勤務 日本精神神経学会学術総会参加
7 月	急性期治療病棟勤務
8 月	急性期治療病棟勤務
9 月	精神療養病棟勤務
10 月	精神療養病棟勤務
11 月	認知症病棟勤務
12 月	研修プログラム管理委員会参加 認知症病棟勤務
1 月	アルコール病棟勤務
2 月	アルコール病棟勤務
3 月	デイケア勤務、アウトリーチ研修 研修プログラム評価報告書の作成

※教室研究会には適宜参加

㉙東京武蔵野病院

	内容
4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	地方精神神経学会参加・演題発表
11 月	
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	地方精神神経学会参加・演題発表

㉚群馬病院

	内容
4 月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告提出
5 月	教室研究会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	教室研究会参加
11 月	
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

㉛ 立川病院

	内容
4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会総会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	共済医学会参加（任意）
11 月	日本総合病院精神医学会　学術総会参加（任意）
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

㉜　東京歯科大学市川総合病院

	内容
4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会総会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	日本総合病院精神医学会　学術総会参加（任意）
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

開催予定月は固定ではないが、医療安全、感染対策、医療倫理の領域に関して、年間各複数回開催される院内研修会に参加する

開催予定月は固定ではないが、市川市医師会主催の認知症関連講演会、市川市医師会精神科医会主催の勉強会に参加する

㉝医療法人社団葛野会　木野崎病院

	内容
4 月	オリエンテーション 院内研修会、医局連絡会、医療安全実行委員会研修
5 月	院内研修会、医局連絡会、医療安全実行委員会研修
6 月	院内研修会、医局連絡会、医療安全実行委員会研修、面談 日本精神神経学会学術総会参加
7 月	院内研修会、医局連絡会、医療安全実行委員会研修
8 月	医療安全実行委員会研修
9 月	院内研修会、医局連絡会、医療安全実行委員会研修
10 月	専攻医研修中間報告書提出、面談 院内研修会、医局連絡会、医療安全実行委員会研修
11 月	院内研修会、医局連絡会、医療安全実行委員会研修
12 月	院内研修会、医局連絡会、医療安全実行委員会研修
1 月	院内研修会、医局連絡会、医療安全実行委員会研修、面談
2 月	院内研修会、医局連絡会、医療安全実行委員会研修
3 月	研修プログラム評価報告書の作成、専攻医研修報告書の作成、 院内研修会発表、医局連絡会、医療安全実行委員会研修

㉞東京都済生会中央病院

	内容
4 月	オリエンテーション、指導医の指導実績報告提出、1 年目専攻医研修開始 2・3 年目専攻医前年研修報告書提出
5 月	
6 月	前年度研修実績報告書提出、日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	1・2・3 年目専攻医研修中間報告書提出
11 月	
12 月	研修プログラム管理委員会参加
1 月	
2 月	
3 月	研修プログラム評価報告書の作成、1・2・3 年目専攻医研修報告書の作成

㉟東京都立小児総合医療センター

	内容

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 日本小児精神神経学会参加
7 月	日本思春期青年期精神医学会参加
8 月	
9 月	
10 月	日本児童青年精神医学会総会参加
11 月	
12 月	
1 月	
2 月	全国児童青年精神科医療施設協議会研修会参加
3 月	

㊱さいたま市立病院

4 月	初任者研修 オリエンテーション
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 前年度研修実績報告書提出
10 月	緩和ケア研修会
11 月	日本総合病院精神医学会学術総会参加
3 月	総括的評価 研修プログラム評価報告書作成

この他に医療倫理、感染症、医療安全に関する研修会（専門医制度機構認定）が院内で開催される。

㊲山梨大学医学部附属病院

4 月	オリエンテーション 1 年目専攻医研修開始 2・3 年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5 月	山梨大学医学部精神神経医学教室同門会講演会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7 月	東京精神医学会参加・演題発表（任意）
8 月	日本うつ病学会参加（任意）

9 月	日本生物学的精神医学会参加（任意）
10 月	1・2・3 年目専攻医研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
11 月	東京精神医学会参加・演題発表（任意）
12 月	
1～2 月	学内研究会発表
3 月	東京精神医学会参加・演題発表（任意） 1・2・3 年目専攻医研修報告書作成